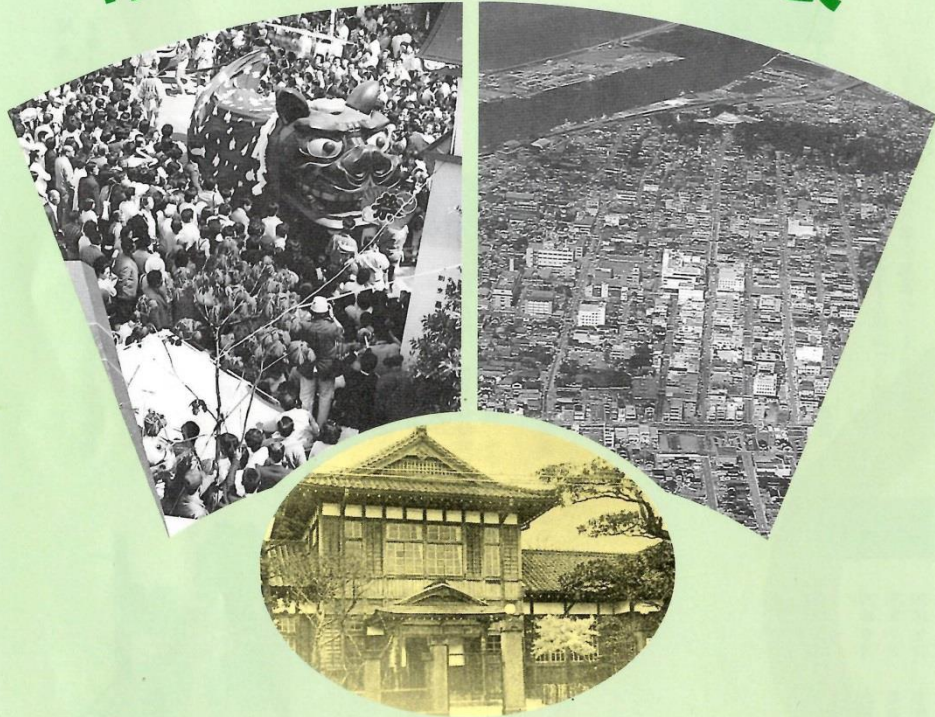


# 市制施行60周年記念展



開館期間 平成5年4月22日(木)～7月4日(日)  
 開館時間 午前9時～午後4時30分  
 休館日 無し  
 入館料 おとな100円・児童生徒50円  
 65歳以上の方と身体障害者の方は無料です

## 酒田市立資料館

酒田市一番町18-16 TEL(0234)24-6544

### 歴代市長の プロフィール



初代市長  
**中里重吉**  
(昭和8～昭和12在職)  
 一八六五～一九四六

鶴岡市八坂町庄内藩士族の家に生まれ山形師範卒業後、教員を勤め県視学となり、大正三年(一九一四)東田川郡長を経て同八年(一九一九)、二代鮑海郡長として酒田に赴任した。その後、大正二年(一九一三)、郡制廃止まで勤め、同年中村弘町長の後を受けて、八代目町長となった。昭和八年、市制施行とともに初代市長となり、昭和十二年五月まで在任した。清廉潔白人望厚く行政手腕に富み、難関を越え近隣合併し、市制施行にこぎつけた。  
 東京の自邸で八二歳で没した。



二代目市長  
**齋藤巴之吉**  
(昭和12～20在職)  
 一八八一～一九六五

酒田で生まれ、齋藤千里の養子となつた。  
 酒田出身の貴族院議員で警視總監をつとめた、官界の太田政弘に引き立て



三代目市長  
**青塚恒治**  
(昭和20～昭和21在職)  
 一八八五～一九五八

られ、政弘に従って台湾、朝鮮にも赴任したが、中里初代市長に迎えられて市の助役に就任した。  
 中里引退の後を受けて二代目市長に就任し、終戦と共に昭和二十年(一九四五)に引退した。  
 昭和四〇年二月、八三歳で没した。



四代目市長  
**本間重三**  
(昭和21～昭和33在職)  
 一九〇九～一九六四

本間家の一族の本間鉄之助の弟に生まれ、養子となつて跡を継いだ。酒田を経て東京商科大学を出て、昭和八年



五代目市長  
**小山孫次郎**  
(昭和34～昭和46在職)  
 一九二二～

酒田市役所に入り、庶務課長から総務課長となり、市役所内部の業務に精通していた。昭和二年、青塚市長退任後、市長代行者となり、最初の首長公選に立候補し当選、第四代目の市長となった。その後三期一二年間の市長の職にあつた。  
 昭和三年一月、歴代市長の長命にくらべ、五五歳の若さで没した。



六代目市長  
**相馬大作**  
(昭和46～半在職)  
 一九二九～

酒田市今町に生まれ、早稲田大学第一



七代目市長(現)  
**大沼昭**  
(平三)  
 一九三〇～

酒田市本町に生まれ、県立酒田中学校から仙台工専(現東北大学)で土木工学を専攻された。  
 卒業後山形県庁で活躍され、昭和四六年九月、庄内支庁河川砂防課長から酒田市土木課長に迎えられた。以来、建設・総務の各部長、市議会事務局長等を歴任した。平成元年(一九九〇)五月、収入役となり、相馬前市長の後継者として、三年五月、七代目酒田市長に当選現在に在る。  
 読書家であり、また民族音楽や世界諸国の民芸品などにも造詣が深く、新リーダーに対する市民の期待は大きい。

鶴岡市家中新町成沢家の次男に生まれ、鶴岡から浦和高校を経て、東大文学部西洋史科を卒業、更に同大学農学部経済学科を卒業した。酒田の小山家に養子として迎えられ、昭和一五年渡満、満鉄調査部に勤めた。戦後、酒田に養子として迎えられるが、昭和三四年、市長選に革新系の推選で立候補し、対立候補である市の助役、齋藤仁八保守系と新人同士で争い、わずかに九票の差で当選した。  
 著書に「市長ノート」「地方十萬都市」がある。

# 酒田市60年の歩み

(昭和8年～平成5年)

## 中里重吉

昭和  
8年4月 市制施行。酒田町役場を酒田市役所と改称。旗行列、提灯行列で祝う。  
10年5月 初代市長に中里重吉氏就任。  
10年10月 国勢調査。世帯数六千三百七十四戸、人口三万一千八百七十人。  
11年3月 このころ酒田の定期航路は酒田―樺太間二十七往復、酒田―北鮮間七往復、酒田―飛鳥間百八十三往復。

## 齋藤巳之吉

12年10月 齋藤巳之吉氏、第二代市長に就任。  
13年 旧鉄興社操業開始で石炭、コークスなどの輸入増加。  
15年5月 花王石鹼酒田工場設立。  
16年4月 西平田、中平田、西荒瀬村の一部が酒田に合併。  
19年 日和山公園、光ヶ丘などに高射砲陣地設置。  
20年8月 二回にわたる空襲で死者三十二人。

## 青塚恒治

20年10月 青塚恒治氏第三代市長に就任。  
米軍一〇名酒田に進駐。  
21年3月 山形県庄内地区労働協議会をつくれる。  
5月 酒田ではじめてメーデーがおこなわれる。  
11月 占領軍公職追放指令により、市長を退職。  
12月 袖浦村の浜中字入間山に入植が行われ八重山部落がつくられる。

## 小山孫次郎

34年5月 激戦のすえ小山孫次郎氏が第五代市長に就任。当市ではじめての革新市長。  
37年5月 市民会館完成。  
38年7月 鳥海山、飛鳥が国定公園指定。  
39年9月 市庁舎完成。  
42年11月 酒田産業会館完成。  
44年9月 千石町に市立酒田病院竣工。

## 本間重三

22年4月 初の市長公選で本間重三氏が当選、第四代市長に就任。  
23年6月 酒田聾学校設立。  
23年8月 本間家本宅を借用し、酒田市民館が発足。  
25年4月 飛鳥が酒田市に合併。  
26年10月 光ヶ丘に市営野球場がつくられる。  
26年1月 酒田港が国の重要港湾に指定される。  
29年4月 光ヶ丘の松林内に酒田市養老院開設。  
町村合併促進法により近隣十村を合併。人口九万三千七百十九人。  
31年5月 浜田小学校焼失。  
32年8月 新田目城跡が県の名勝天然記念物に指定される。  
33年4月 湯之浜合併問題で住民投票の結果、鶴岡への現状維持と決まる。

## 相馬大作

46年4月 相馬大作氏第六代市長に就任。  
47年5月 市営体育館完成。  
6月 出羽大橋完成。  
49年7月 酒田開港三百年記念行事施行。  
50年7月 名譽市民第一号に写真家土門拳氏を選ぶ。  
51年10月 市の木にタブの木、市の花トビシマカンゾウを決定。  
50年7月 酒田大火、焼失面積二二、五ha、焼失建物、一、七七四棟。  
54年10月 ソ連ジェレズノゴルスク、イリムスキー市と姉妹都市を締結。  
57年4月 住軽アルミ、解散を発表。  
58年5月 総合文化センター完成。  
59年10月 土門拳記念館完成。  
59年10月 秋祭りとして、第一回どんしゃん祭りを開催。  
60年8月 通産省ニューメディアア、コミュニティ構想モデル地域指定。  
62年7月 酒田市名譽市民に加藤千恵氏、特別名譽市民に前田巖氏を選ぶ。  
63年4月 庄内情報プラザ完成。

## 大沼昭

3年4月 大沼昭氏第七代市長に就任。  
7月 国体記念体育館完成。  
4年4月 酒田港開港五百年記念事業施行。大型帆船「日本丸」寄港。  
8月 国際新航路「東方水上シルクロード」の第一船が入港。  
9月 べにはな国体夏季大会(漕艇)  
10月 べにはな国体秋季大会(ラクビー、バレーボール、テニス)

